

2016
12月

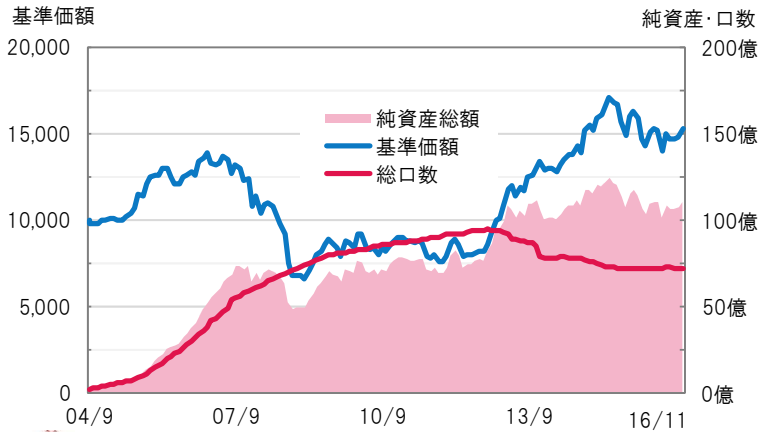
ありがとうファンド 月次運用レポート

Arigato Fund Monthly Report

第148号-②【基準日 2016年11月30日】



基準価額の推移



ファンドの情報

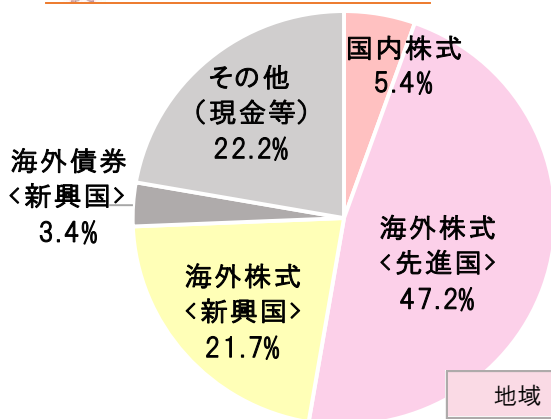
基準価額	15,360円
純資産総額	110億81百万円
口座数	4,852
積立割合	56.2%

ファンドの騰落率

ファンド/参考指数	1ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来	年率複利	標準偏差
ありがとうファンド	+3.4%	+0.8%	▲6.0%	+17.6%	+101.4%	+53.6%	3.57%	17.9
TOPIX配当込み	+5.5%	+7.6%	▲4.9%	+24.1%	+123.9%	+61.9%	4.01%	22.9
MSCI ACWI (世界、円)	+9.3%	+6.8%	▲3.6%	+23.6%	+130.5%	+135.5%	7.24%	22.5
MSCI KOKUSAI (日本除く先進国、円)	+10.5%	+6.1%	▲3.9%	+26.8%	+144.1%	+145.9%	7.62%	23.8
MSCI EM (新興国株、円)	+3.4%	+11.6%	+0.6%	+2.4%	+56.9%	+182.3%	8.84%	26.5

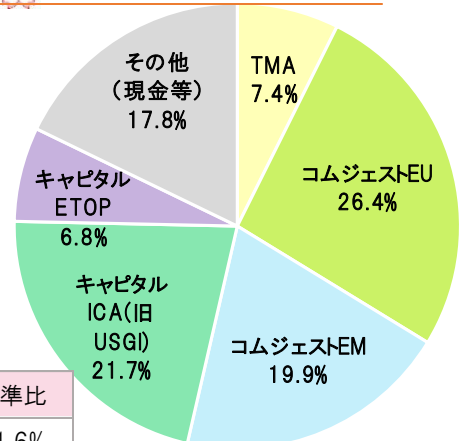
※「年率複利」は、過去の実績値であって将来の成績を保証するものではなく、またお客様ごとの購入時期によって運用結果は異なります。「年率複利」と「標準偏差」については、ありがとうファンド設定来(2004年9月1日)からのデータを基に、弊社にて計算しております。参考指数(円ベース)の騰落率についてはFACTSETよりデータを参照し、弊社にて計算しております。(レポート最終ページに注記があります。)

資産配分(10月末時点)



地域・資産	組入比率	基準値	基準比
国内株式	5.4%	7%	-1.6%
海外株式<先進国>	47.2%	60%	-12.8%
海外株式等<新興国>	25.1%	28%	-2.9%
その他(現金等)	22.2%	5%	+17.2%

ポートフォリオ(11月30日時点)



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

直近のマーケット動向、ありがとうファンドについて



11月のマーケットはどうでしたか？

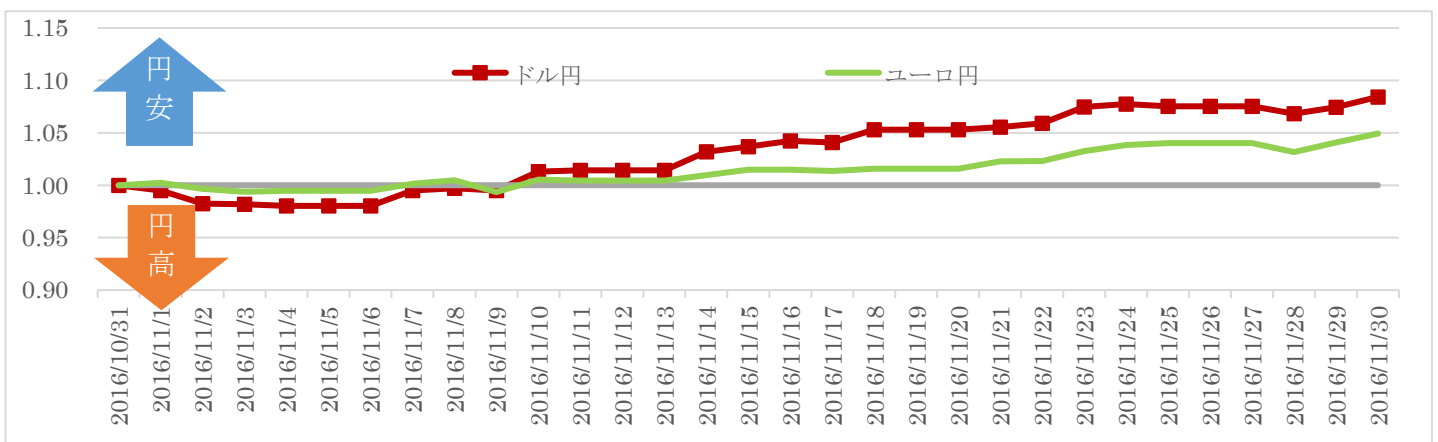
11月のマーケットの動きですが、米大統領選挙において、ドナルド・トランプ氏が次期大統領に選出されたことを受け、大胆な財政支出などによる景気拡大期待から米国市場を中心に株価は上昇基調となりました。序盤は、米大統領選挙の行方を見守る中、世界株式市場の株価は低調に推移しました。米大統領選開票日の開票される時間帯に日本株式市場が開いていたという事もあり、当日日本株は大きく下げました。しかしながら、トランプ氏の大統領勝利演説が今までの過激な印象とは異なった事、また財政支出などの期待もあり、株価は戻し、その後上昇基調が続く1ヶ月でした。特に日本株市場では、米国長期金利の急上昇を背景に、米ドル高、円安が急速に進行し、株価を押し上げる要因になりました。欧州では、12月4日にイタリアの国民投票を控えていたことなどもあり、横ばいに推移しました。一方、新興国では、期待先行で株価の上昇が続く米国市場へ資金流出が続き、相対的に低調な株価推移の1ヶ月でした。終盤、OPEC（石油輸出国機構）の総会で8年ぶりに減産合意に至り、原油先物価格(WTI)は久々に節目の50米ドル/バレルを超えました。しかしながら、株価は12月4日のイタリア国民投票などのリスクを意識して、反応は限定的に終わりました。



月間の騰落率としては、TOPIX（配当込み）は5.49%の上昇、米国S&P500（配当込み）はドルベースで3.70%の上昇、欧州MSCIヨーロッパ（配当込み）はユーロベースで1.11%の上昇、新興国MSCIエマージング（配当込み）はドルベースで4.62%の下落となりました。

為替相場は月末時点で、ドル/円で113円台、ユーロ/円で120円台となり、前月末比対ドル、対ユーロ共に円安にふれました。

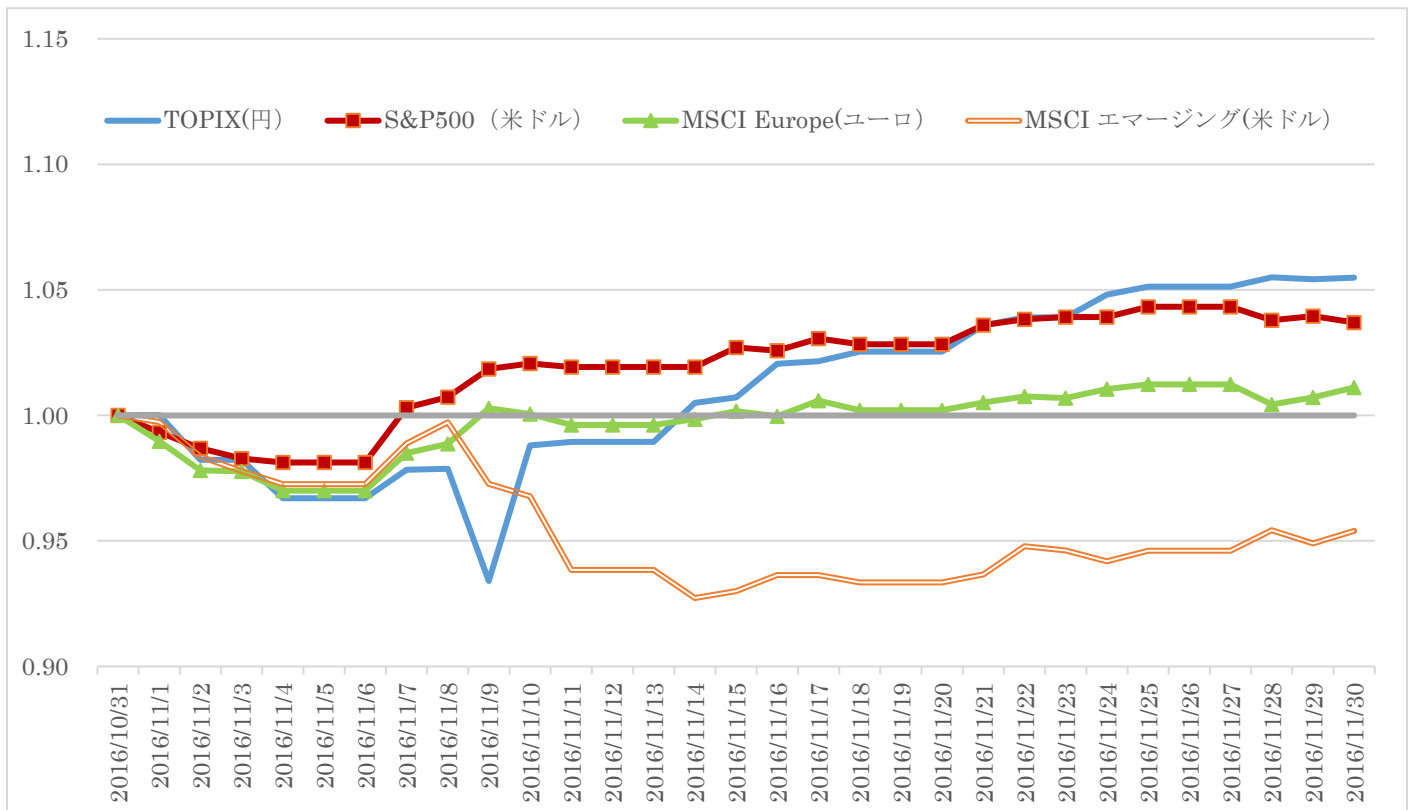
【ドル相対円、ユーロ推移】2016年10月31日を1として指数化



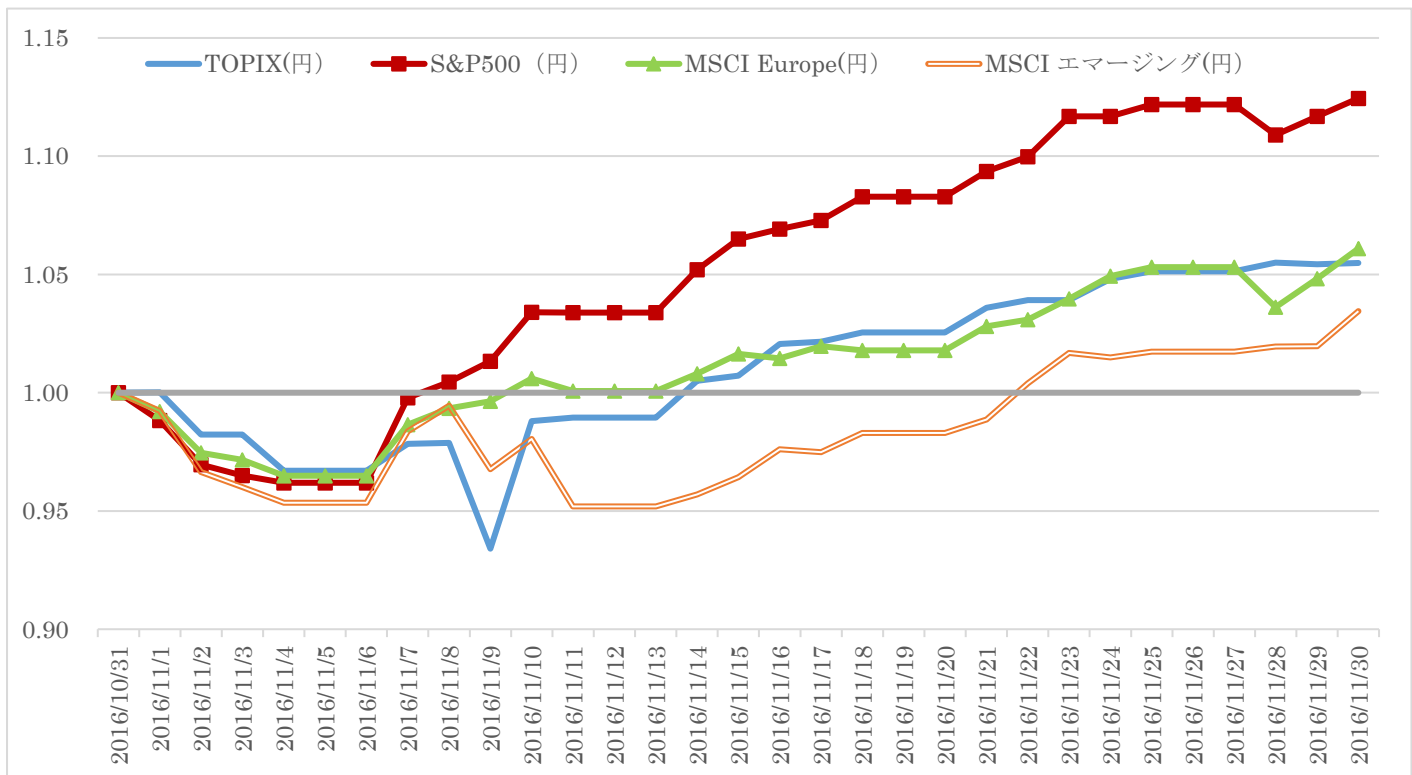
ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

【主要株式指数推移(配当込、各国通貨ベース)】2016年10月31日を1として指数化



【主要株式指数推移(配当込、円ベース)】2016年10月31日を1として指数化



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

上記現地通貨ベースの指数推移をみて頂くと、今月は日米株式市場が他市場相対で堅調に推移したことが確認できると思います。トランプ次期米大統領に対する期待から株価が先行して上昇する展開でした。



ありがとうファンドの運用はどうでしたか？

ありがとうファンドの11月月間騰落率は3.4%の上昇となりました。投資先ファンドでは、円ベース比較でキャピタルICAファンド、キャピタルETOPファンドが各種参考指数にアウトパフォーム、もしくは同等の結果となりました。

11月中の売買状況については、国・地域別配分新基準値への変更に向けて、主な投資対象を日本株式としている社会貢献ファンドを全売却（繰上償還）、TMA長期投資ファンドを一部売却しました。



今後の見通しはどうなりそうでしょうか？

今後の見通しについては、足元トランプ次期米大統領の財政政策・金融業界に対する規制緩和などに対する期待先行で米国の景気敏感株中心に株式市場を牽引していますが、期待通りにこういった政策が実行できるかはいまだ不透明です。11月末のOPECの減産合意、12月序盤のイタリア国民投票と年内の株価に大きな影響を与える可能性のあったイベントは一通り終わったと考えております。12月半ばの米利上げはほとんど織り込み済みで、利上げについては来年以降のスピード感が意識されると考えております。

日本株式市場については、日米の金利差から足元急激に円安へ振れています。株価は堅調に推移していますが、やはり為替頼みのところがありますので、引き続き慎重な見方をしています。欧州株式市場は来年以降も主要国の大統領選などのイベントがあり、引き続き不透明な状況ではありますが、経済自体は底打ち感があります。エマージング株式市場においては、足元では原油価格も安定してきて、年初からの回復もだいぶ進みました。特に中国では製造業からサービス業へと経済構造をシフトする中、経済全体の成長率鈍化などの問題は引き続きありますが、経済成長率の絶対値は先進国と比べて高く、長期での成長が見込まれると考えています。





今後の運用方針はどうなりそうでしょうか？

今後の運用方針についてですが、世界経済は Brexit、トランプ次期大統領の選出、イタリア国民投票の結果などを見るに、保護主義・ポピュリズムが台頭して、大きな変革期にあるように見えます。株式市場という観点から考えると、リーマンショック後、各国・地域は金融緩和で各々の経済・株式市場を支えて、各市場同じ方向に動く局面が多く見られましたが、保護主義が色濃くなってきた昨今では、ある意味各市場同士の相関が薄れ、分散効果が見られるようになってきました。このような環境下では、一つの市場だけに投資することは非常にリスクが高いと考えますので、特定の市場に偏ることなく幅広く分散投資することで、長期的に持続性のあるリターンを享受できると考えております。その点、ありがとうファンドでは引き続き国際分散をさらに推し進めることにより、世界経済の変革期に対応していきたいと考えております。

また、投資対象のファンドという観点からは、足元金融関連銘柄といった景気敏感株の株価上昇が目立ちますが、当ファンドではあくまでも長期投資を前提とし、長期で企業利益成長が見込まれる銘柄を発掘するファンドを厳選して投資を続けていきたいと考えております。

最後に、当ファンドはさらなる国際分散投資へと舵を取っている最中です。国・地域別配分新基準値への変更に向けて、足元ポートフォリオの調整をしている関係から足元の現金比率を11月末で17.8%まで積み上げています。こちらの現金をもって年内もしくは来年年初を目途に新しい投資先を中心に買い付けを行う予定です。



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

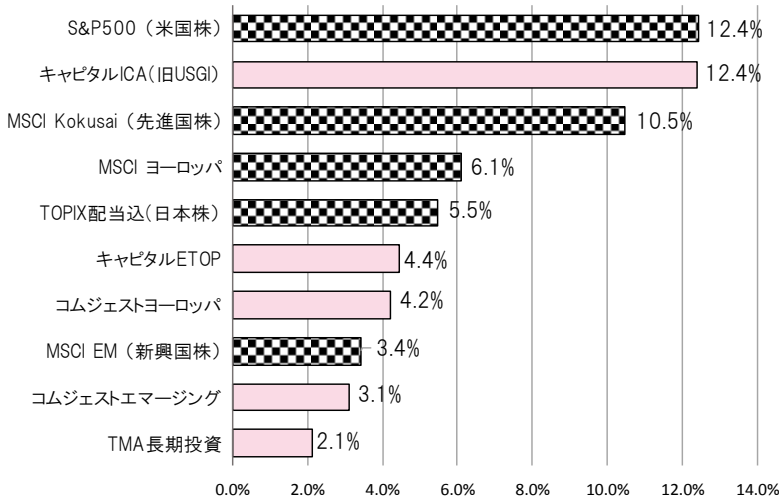


投資先ファンドの状況について教えてください。

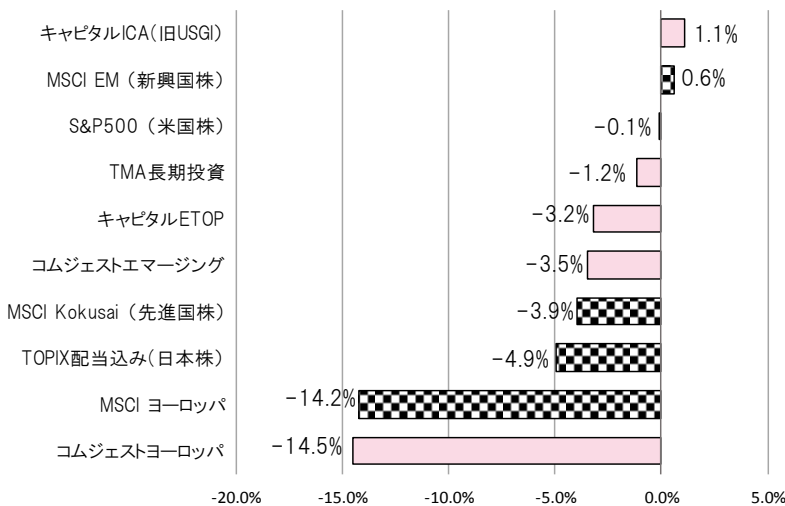


まずは下の投資先ファンドの月間と年間の騰落率をご覧ください(2016年11月30日時点)

【月間騰落率】 投資先ファンド月間騰落率



【年間騰落率】 投資先ファンド年間騰落率

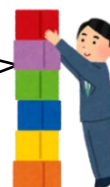


月間騰落率については、キャピタルETOPファンドが参考指数(円ベース)に対しアウトパフォームしました。キャピタルICAファンドは現金保有比率が高め(価格変動率は参考指数対比で低減)であるにもかかわらず、参考指数と同等のパフォーマンスを維持しました。低調なパフォーマンスが目立ったTMA長期投資ファンドの要因としては、主な投資対象としている日本株式市場では足元景気循環系セクターへの買いが中心になり、銀行、金融(除く銀行)、自動車・輸送機などのセクターの銘柄が上昇していましたが、投資先ファンドではこれらのセクター銘柄保有割合が低いか、または保有していないことによって、参考指数に対してアンダーパフォームする結果となりました。

年間騰落率については、キャピタルICAファンド、TMA長期投資ファンドが各種参考指数(円ベース)に対しアウトパフォームしました。一番低調なパフォーマンスのコムジェストヨーロッパファンドについては、年初大きく下げて、足元株価を戻してきている景気敏感銘柄の比率が参考指数相対で低位だったこともあり、アンダーパフォームする結果になりました。

※ 上記参考指数(円ベース)の騰落率については FACTSET よりデータを参照し、弊社にて計算しております。(レポート最終ページに注記があります。)

マーケットが楽観的な時も悲観的な時も、長期投資はじっくりコツコツ続けていくことが大切です！時間を味方につけて、一緒に国際分散投資で資産運用していきましょう！何かご不明な点がございましたら、お気軽に弊社までお問合せください。(ありがとうファンド運用担当者)



投資先ファンドの運用パフォーマンス

#	投資先ファンド	主要投資地域	組入比率	1ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	年率複利(5年)
1	TMA長期投資	日本、先進国	7.4%	+2.1%	▲2.5%	▲1.2%	+36.7%	+133.6%	+18.2%
	<i>MSCI World Index</i> (先進国、円)			+10.0%	+6.2%	▲4.1%	+26.3%	+141.9%	+19.0%
2	キャピタルICA (キャピタルUSGI)注	米国	21.7%	+12.4%	+7.1%	+1.1%	+37.3%	+171.2%	+21.7%
	<i>S&P500</i> (米国、円)			+12.4%	+8.9%	▲0.1%	+44.4%	+188.2%	+23.1%
3	コムジエスト ヨーロッパ	欧州	26.4%	+4.2%	▲4.1%	▲14.5%	+8.7%	+126.4%	+17.4%
	<i>MSCI EUROPE</i> (ヨーロッパ、円)			+6.1%	▲2.0%	▲14.2%	▲0.2%	+91.5%	+13.6%
4	コムジエスト エマージング	エマージング	19.9%	+3.1%	+8.4%	▲3.5%	+10.9%	+84.0%	+12.7%
5	キャピタルETOP	エマージング	6.8%	+4.8%	+5.9%	▲3.2%	+4.4%	+53.1%	+8.7%
	<i>MSCI EM</i> (新興国株、円)			+3.4%	+11.6%	+0.6%	+2.4%	+56.9%	+9.3%

注1: ありがとうファンドの運用パフォーマンスについて、当ファンドの当月末時点での基準価額を基に計算しております。当ファンドの当月末時点での基準価額は前営業日における投資先ファンド(キャピタル ETOP については前々営業日)の基準価額を基に算出されております。参考指数(円ベース)の騰落率については FACTSET よりデータを参照し、弊社にて計算しております。(レポート最終ページに注記があります。)

注2: キャピタル USGI ファンドは 6 月 17 日(投資先現地日付)をもって ICA ファンドに統合されましたので、6 月 17 日より前の ICA ファンドの基準価額は存在しません。よって上記の運用パフォーマンスは 6 月 17 日以降の ICA の基準価額を統合時点の両ファンドの基準価額で換算し、6 月 17 日より前のキャピタル USGI ファンドの基準価額と比較できるよう調整をしています。



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 304 号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

各投資先ファンドの組入銘柄 TOP5

◎TMA長期投資ファンド

マザーファンド株式組入上位5銘柄					11月30日時点
銘柄	国	業種	事業内容	組入比率	
1 ヤフー	日本	メディア	米ヤフーとソフトバンクの合併で設立、ポータルサイトを運営しシェアは国内首位	5.3%	
2 前田道路	日本	建設・住宅・不動産	空港の滑走路や高速道路を含む道路の舗装工事を手掛ける。	4.6%	
3 ヤオコー	日本	小売	埼玉県を中心に、食品スーパー「ヤオコー」を展開する。経常利益率は食品スーパー業界でトップクラス。	3.9%	
4 キーエンス	日本	産業エレクトロニクス	FA(ファクトリーオートメーション=工場自動化)用センサーをはじめとする各種センサー、測定器、画像処理機器、制御・計測機器、研究開発用解析機器などの開発、製造、販売を行う。	3.3%	
5 CHURCH & DWIGHT CO INC	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	家庭用品、パーソナルケア製品、特殊製品の開発、製造、販売を手がける。スーパーマーケット、量販店、ドラッグストア、コンビニ、1ドルショップ、専門店、ウェブサイトなどを通じ消費者に製品を提供する。	3.2%	

◎ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドSA

マザーファンド株式組入上位5銘柄					11月30日時点
銘柄	国	業種	事業内容	組入比率	
1 INDITEX	スペイン	一般消費財・サービス	日本ではZARAで有名、世界のファッション・アパレルのリディングカンパニーの一つ	7.6%	
2 AMADEUS IT GROUP SA	スペイン	情報技術	旅行予約管理からチェックインなどのプロセス管理まで旅行業に特化したトラベルテクノロジー企業	6.2%	
3 ESSILOR INTERNATIONAL	フランス	ヘルスケア	光学製品メーカー、世界56か国に展開、遠近両用レンズのVariluxで有名	5.3%	
4 DASSAULT SYSTEMES SA	フランス	情報技術	フランスで最大、EUでもトップ3に入る規模の大手ソフトウェア会社	5.3%	
5 COLOPLAST-B	デンマーク	ヘルスケア	1957年にデンマークで誕生したグローバルヘルスケア企業、ストーマケア製品に強み	4.4%	

◎ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA

マザーファンド株式組入上位5銘柄					11月30日時点
銘柄	国	業種	事業内容	組入比率	
1 TAIWAN SEMI CONDUCTOR-SP ADR	台湾	情報技術	世界最大の半導体専業ICファブリーメーカー	6.2%	
2 CHINA LIFE INSURANCE CO-H	中国	金融	中国北京に本社を置く生命保険会社、中国各地に代理店網を形成	5.1%	
3 NETEASE INC ADR	中国	情報技術	オンラインゲームやインターネットサービスを手掛ける。オンラインゲーム事業、広告サービス事業、電子メール・無線付加価値サービス・その他事業の3事業を展開。	4.5%	
4 POWER GRID CORP OF INDIA LTD	インド	公益事業	インド内での送電事業、電気通信事業、送電通信コンサルティング事業を主とする企業	4.2%	
5 INFOSYS LTD-SP ADR	インド	情報技術	グローバル企業を対象に、コンサルティング、テクノロジー、アウトソーシングなどを通じて、顧客のビジネス・パフォーマンスを高めるためのソリューションを提供している。	3.6%	

◎キャピタル・グループCA(旧キャピタル・グループ・USグロースアンドインカム ファンド クラスZ)

株式組入上位5銘柄					10月31日時点
銘柄	国	業種	事業内容	組入比率	
1 AbbVie	アメリカ	ヘルスケア	研究・開発に重点的に取り組むバイオ医薬品会社。幅広い独自医薬品の発見、開発、製造、販売を行う。	3.6%	
2 AMGEN	アメリカ	ヘルスケア	DNA組換えや分子生物学的技術を軸とした世界的バイオ医薬品メーカー	3.1%	
3 PHILIP MORRIS INTERNATIONAL INC	アメリカ	生活必需品	世界180か国以上でマールポロなどの製品を販売する最大のたばこメーカー	2.6%	
4 VERIZON COMMUNICATIONS	アメリカ	電気通信サービス	世界最大級の電気通信事業者、150か国以上に展開、NYダウ30採用銘柄	2.4%	
5 TEXAS INSTRUMENTS	アメリカ	情報技術	アナログ・デジタル半導体IC(集積回路)の設計・製造会社。	2.2%	

◎キャピタル・グループ・エマージング・マーケット・トータル・オポチュニティーズ クラスZ

組入上位5銘柄					10月31日時点
銘柄	国	種類	債券格付け、事業内容など	組入比率	
1 ARGENTINA GOVERNMENT	アルゼンチン	債券	格付B	5.8%	
2 BRAZIL GOVERNMENT	ブラジル	債券	格付BB	5.8%	
3 UNITED MEXICAN STATES	メキシコ	債券	格付A	5.7%	
4 INDIA GOVERNMENT	インド	債券	無格付	5.0%	
5 RUSSIA GOVERNMENT	ロシア	債券	格付BB	2.7%	



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目録見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

ありがとうピックス

『新投資先ファンド紹介』

ありがとう投信株式会社
ファンドマネージャー 真木 喬敏



皆様、いつも大変お世話になっております。ありがとうファンドでは、さらなる国際分散投資を通じて運用パフォーマンスの向上を目指しておりますが、ついに11月末の有価証券届出書の提出に合わせて新投資先パートナー1社と投資先ファンドを4本追加することができました。今月のありがとうピックスでは主にそれら4本のファンドの特徴について説明させていただきます。

まず最初に、新しく投資先パートナーとして追加したアライアンス・バーンスタイン(略称 AB)について簡単ではありますが説明させていただきます。AB はニューヨーク証券取引所に上場していて、資産運用業務では45年の実績を持つ運用会社です。日本における業務については今年でちょうど30周年を迎えました。図1、図2にもあるように世界各地に拠点をもち、また多くのリサーチアナリストを擁しています。もともと長期投資を前提とされている年金基金の資産を預かることが多く、同じ長期投資のありがとうファンドとの親和性は高いと考えております。投資対象の資産クラスについても、伝統的な株式・債券などのラインナップはもちろん、株式だけに限定せず、債券と組み合わせたマルチアセットなど幅広い運用体制を有しています。同社はもともとグロース戦略(成長株選別)で有名なアライアンスがバリュー戦略(割安株選別)で定評のあるバーンスタインを吸収合併した経緯があり、流行ですぐに廃れるテーマ性の投資には流されず、投資の王道とも言える両戦略を得意としているところに弊社としても期待している次第です。

図1: 世界21か国、47都市に拠点を構えるアライアンス・バーンスタイン



※赤字は運用・リサーチを行っている拠点
出所: AB

2016年9月末現在

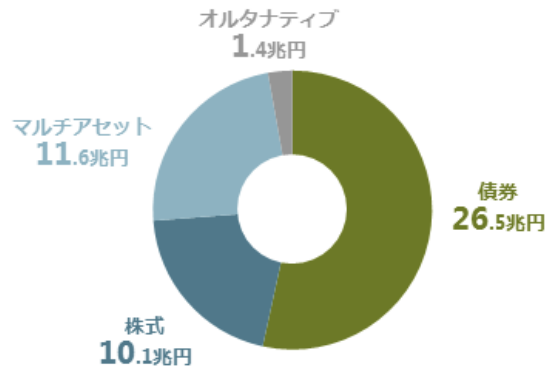
ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

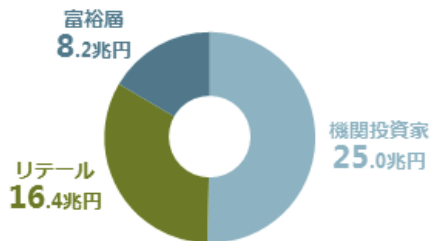
図2:長期投資を前提とする年金基金からの預かり資産が多い

ABの運用資産額 約49.6兆円 (4,902億米ドル)

運用スタイル/資産クラス別



顧客別



顧客地域別



2016年9月末現在

※四捨五入の関係上、上記各項目の合計と運用資産総額が一致しない場合がございます。
 ※円換算レートは2016年9月30日WMロイター、1米ドル=101.265円を使用しています。
 出所：AB

① AB エマージング・マーケット・エクイティ・ポートフォリオ

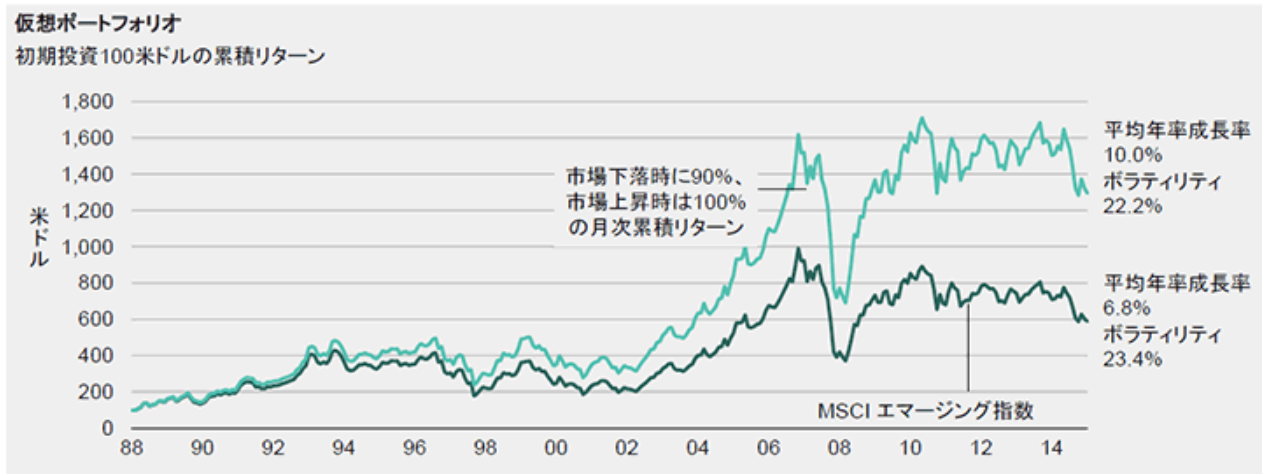
さて、このようにグローバルで活躍するABから、3つのファンドをありがとうファンドの投資先ファンドとして採用しました。まず最初に説明させて頂くのは新興国株式を主な投資対象としているAB エマージング・マーケット・エクイティ・ポートフォリオです。こちらのファンドは、まさにアライアンスとバーンスタインのいいとこどりで、グロース戦略と、バリュー戦略を組み合わせたコア戦略を採用していて、中長期で企業の利益成長が見込まれる銘柄や、割安で放置されている銘柄を発掘しています。またこちらのファンドは、図3にあるように、無理に上値を狙うような運用ではなく、下げ相場で下げ幅を抑えることにより長期で市場を上回るリターン獲得を目指すファンドになります。長期的に見れば新興国市場の経済成長は人口増、労働人口増、中間所得者増による消費増加による傾向などから先進国の経済成長より高いと考えていますが、マクロ情勢に左右される市場でもありますので、なるべく下値を抑えるという考えのもと、こちらのファンドを採用するに至りました。



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

図3:市場下落時に下落幅を抑制することで、長期で市場を上回るリターンを狙う(過去のシミュレーション)



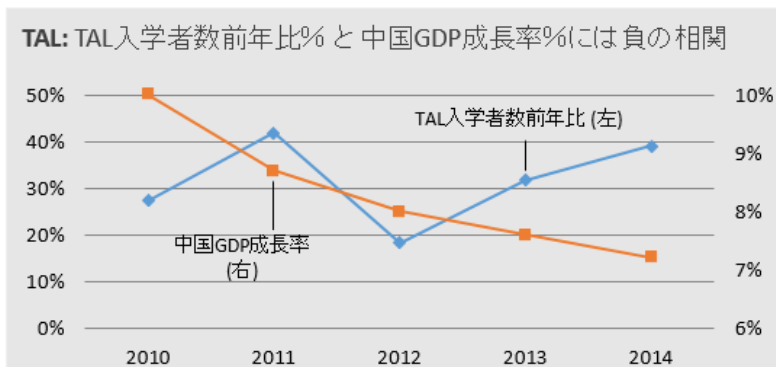
2015年12月31日現在

上記の仮想ポートフォリオのパフォーマンスは、MSCIエマージング指数が上昇した月は同指数と同じパフォーマンス、下落した月は90%の下落幅にとどまるといふ仮説に基づきます。仮想ポートフォリオのパフォーマンスは、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

出所：MSCI、AB

具体的に組入れている銘柄を1つ選んで紹介してみましょう。TAL Education Group という中国で塾サービスを提供している企業があります。中国では、今まで世界の工場と呼ばれたように製造業を主に経済成長を拡大してきましたが、今後は増えた中間所得者層をターゲットとしたサービス業が経済成長を牽引していくと考えております。そんな経済構造の転換点において、中国の景気は一時的に後退局面に入っています。そんな中、自分の子供にはできるだけ良い大学に入学させたいという親が多くいるようです。また一人っ子政策の副作用として、一家庭に一人しかいない子供に対する期待も大きいのかもしれません。図4を見て頂くとわかるようにGDP成長率と塾入学者数との間には負の相関があるように見えます。こちらはほんの一例になりますが、こういったデیفENSEイブ銘柄を組み入れてダウンサイドリスクに強い運用を目指しています。今月から開催しています「新投資先ファンド紹介セミナー」ではこういった実際に投資している銘柄を通してファンドの特徴を説明しています。ほかの例では最近スマートフォンのバッテリー発火で世間を騒がせている韓国銘柄のサムスン電子にも投資をしています。株価を見てみると思ったほか下げていません。むしろ上昇基調です。つまり市場はスマートフォンビジネス以外の成長戦略を織り込んでいるという事です。そういったお話もさせて頂いていますので、是非参加を検討いただくと幸いです。

図4:TAL Education Group (Tomorrow Advancing Life) について



出所：AB、ありがとう投信翻訳

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

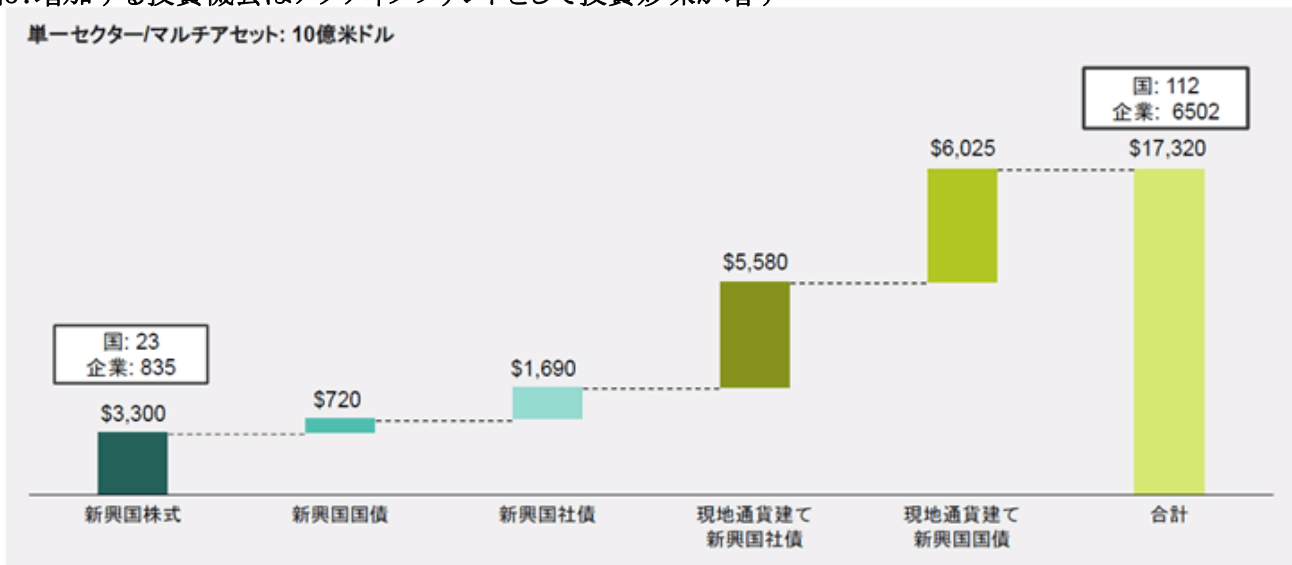
このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

② AB エマージング・マーケット・マルチアセット・ポートフォリオ

新興国対象に AB からもう1本ファンドを採用しております。AB エマージング・マーケット・マルチアセット・ポートフォリオという名前のファンドになります。名前が長くてすみません。太字で強調した箇所以外、前の段落で説明したファンドと同じ名前です。理由は簡単で、株と債券を組み合わせて運用しているため、**マルチアセット**となっています。2016年10月末時点では、株式約70%、債券30%の比率で運用しております。株式運用部分については前段落の戦略と同戦略になります。では、なぜ債券を組み入れたのでしょうか？理由は簡単で、こちらも価格変動リスクを下げるために債券を組み入れています。債券は株式と比べると値動きの幅が小さいためです。しかしそれだけではなく、守る一方、攻める意味でも債券を投資対象として位置づけています。

図5で見て頂くとわかりやすいと思いますが、MSCI EM 指数(2015年12月末時点)の構成銘柄は新興国23カ国、835企業となっています。これに新興国債券市場の構成銘柄を加えると112カ国、6502企業まで投資対象が増加します。投資対象が増えるという事はアクティブファンドとして超過収益を生み出すための銘柄選別対象が増えるということでもあり、よりアクティブの手腕が試される運用になります。

図5:増加する投資機会はアクティブファンドとして投資妙味が増す



上記は例示目的のシミュレーションであり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。2015年12月31日現在
出所: AB

③ AB アメリカン・グロース・ポートフォリオ

AB 採用ファンド3本目ですが、AB アメリカン・グロース・ポートフォリオという、主な投資対象を米国とする成長銘柄への長期投資に定評のあるファンドになります。ファンドの設定は1997年から約20年という実績を持ち、特にテクノロジー関連の成長銘柄を多く保有しています。この20年はまさにインターネットなどの技術革新によって、地球の裏側の情報が瞬時に得られる時代になり、国と国の距離が近くなり、さらには人と人の距離も近くなるグローバル化が世界経済を牽引してきた20年と言っても過言ではありません。そんなメガトレンドと共にこちらのファンドは成長してきました。足元、米国では次期大統領がトランプ氏に決まり、テクノロジー関連を主とする情報技術銘柄は一時的に下火になっていますが、こういったデジタル化といったメガトレンドは長期的なものだと我々は考えていますので、あくまでも長期投資の対象として採用を決定致しました。

こちらのファンドについても、具体的な保有銘柄を1つピックアップしてみましょう。皆さん、最近当たり前のようにオンラインショッピングをされていると思いますが、購入する際クレジットカードで決済する方が多いと思います。VISAのクレジットカードを使って決済されている方も多いのではないのでしょうか？クレジットカードは簡単に言うと、1ヶ月期限の短期の借金です。そういった背景から、VISAは金融関連銘柄として認識されることが多いのですが、実はVISAは電子決済サービスを提供する情報技術関連銘柄です。VISAはあくまでカードのブランドであって、金貸し業として貸し倒れなどのリスクはVISAのブランドを使ってカードを発行している提携先の金融機関にあります。よって、景気が悪くなって貸し倒れが増え、収益が急激に傾く様ないわゆる景気敏感の金融銘柄ではなく、オンラインショッピングでの購入が増えクレジット決済が増えれば増えるほど儲かる手数料ビジネスなのです。今後特に新興国などではデジタル化もさらに進み、消費を支える中間所得者層も増えていきます。そのような電子決済が増えていくメガトレンドの中、世界最大の決済金額シェアを持つVISAの収益は長期で成長していくことが合理的に見込まれるという事です。そういった持続的な成長を続ける質の高いグロースビジネスに投資するのがこちらのファンドの特徴の一つです。このほかにも、ロボット支援外科手術の分野で活躍する会社などにも投資をしています。海外の個別銘柄について説明を聞く機会はあまりないと思いますので、是非「新投資先ファンド紹介セミナー」に参加頂ければと思います。

④ コムジェスト日本株式ファンド

さて、最後の1本になりましたが、コムジェスト・アセットマネジメントが運用しているコムジェスト日本株式ファンドの説明をさせていただきます。ABファンドの特徴がグロース戦略とバリュー戦略を掛け合わせたコア戦略であれば、コムジェストは徹底的にグロース戦略にフォーカスした運用会社です。コムジェスト日本株式ファンドについてもこの点まったくブレていません。徹底したボトムアップ・アプローチ、足を使うリサーチで継続的に企業業績を伸ばす銘柄を発掘することを目指しています。日本株運用部門コアマネージャーのリチャード・ケイさんは日本語も堪能で、愛車の自転車です。都内の企業、決算説明会など訪ね回っているというまさにアナリストという言葉が似合う方です。

10月末時点で39銘柄に投資をしていますが、1銘柄皆さんのよく見かけるものを製造している企業を紹介してみましょう。業務用厨房機器メーカーの大手でホシザキ株式会社という銘柄です。図6の可愛いペンギンマークをどこかで見た事はないでしょうか？今度飲食店に行った際にチラッと厨房をのぞいてみてください。銀色の大きな冷蔵庫にひょこっとペンギンマークが見えると思います。私が非常勤で教えている大学の講師控室にもホシザキ製のティーサーバー(図6)が設置されていました。以前働いていた六本木ヒルズの運用会社のカフェテリアの隅にあった製氷機にもペンギンマークがついていました。ホシザキ株式会社は強固な販売網で、数多くの製品で国内トップのシェアを築いています。また、国内のシェアに甘んじることなく海外へも積極的に進出しているところに今後の成長性を垣間見ることができます。私の知り合いで米国ペンシルバニア州のインテルで働いているシステムエンジニアがいますが、彼のオフィスのティーサーバーにもペンギンマークがついていると言っていました。



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

図6:ホシザキ株式会社:可愛いペンギン大学講師控室にもいました！



出所：会社資料、ありがとう投信

商品のバリエーションについても、ペンギンマークから連想するに製氷機などの冷たいもの専門かと思いきや、スチームオーブンも生産しています。私は以前板前をしていたので良くわかりますが、通常ガスオーブンよりスチームオーブンの方が使い勝手が断然いいです。ローストビーフも焼けるし、焼売も蒸せるし、茶わん蒸しも蒸せますし、冷めた酢飯を温めることもできます。また、通常ガスオーブンと比べて掃除が断然楽です。さらに、私の私見ではございますが、高齢化が進む日本国内では老人ホームやケアハウスの数が増えています。基本そういった施設で提供される食事は火を通す必要があります。また、施設の調理は専門業者への外部委託が多いので、手入りの簡単なスチームオーブンの需要は多くあると思います。コムジェストはフランス発の外資系運用会社で、国・地域の隔たりなく銘柄の意見交換もできます。ドイツの Rational というスチームオーブン(コンベクション)を生産している会社がありますが、そういった海外銘柄を担当しているフランスのアナリストと密に意見交換をして、ホシザキのスチームオーブンについての成長性を議論しているとの事でした。こちらのファンド自体は今年の3月からの設定という事で、まだ日が浅いですが、年金基金アドバイザーなどの日本株式戦略自体は現行のチームで2009年からの運用実績があります。2016年にはR&Iファンド大賞を確定給付年金国内株式グロス部門で受賞しており、良好な運用パフォーマンスを長期で残しております。



長文になってしまいましたが、新投資先の各4ファンドについて、まだまだお伝えしたい事はたくさんございますので、是非「新投資先ファンド紹介セミナー」にお足を運んでいただくと幸いです。

●記載内容について:

資料に記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考として申し述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。